

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0110413994		
法人名	医療法人 福和会		
事業所名	グループホーム青空		
所在地	札幌市手稲区曙11条2丁目3番13号		
自己評価作成日	平成25年10月31日	評価結果市町村受理日	平成26年1月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0110413994-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0110413994-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経営母体が隣接する医療法人で入居者の健康に関して全面的に相談できる仕組みが確保されている。  
また、管理者は看護師で入居者と家族の安心につながっている。  
栄養士が献立作成しているため栄養バランスに配慮された食事になっていて入居者の楽しみになっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム 青空」は、医療法人母体病院の広い敷地内に、ケアハウスに併設し、もう一つのグループホームと隣接して立地している。屋内は病院の渡り廊下につながっており、ケアハウスやグループホームとも行き来出来る造りになっている。医療と介護をサポートする複合施設の一環として、平成12年に開設した当事業所は、母体の協力病院のバックアップと他の施設との連携を図りながら、利用者の命と心のケアを大切に暮らしを提供している。管理者は看護師資格を持ち、協力病院と一体となって利用者の健康を管理し、緊急時の受け入れ態勢も整っているため、本人・家族・職員の安心感につながっている。火災などの災害時には病院・施設との協力体制のもとに、各事業所の職員が駆けつける仕組みが整っている。前回の外部評価での課題にも熱心に取り組み、工夫を重ねている。職員の声かけや対応も行き届いており、利用者・家族の満足度も高い。利用者は各施設の中庭にある畑で採れた収穫祭と一緒に祝い、渡り廊下で自由に他施設と行き来して交流している。利用者は、病院の多目的ホールで行われる行事やボランティアの催しに参加し、地域の子供達との交流を楽しむなど地域に根差した生活を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根ざした穏やかな暮らしを大切にし利用者の命のケアとご家族の心身の緩和に努めます」職員はこの理念を記載したカードを常に携帯して日々のケアに生かしている	法人グループホーム共通の運営理念と介護理念を要所に掲示している。介護理念の「ゆっくり いっしょに 楽しい暮らし」は、事業所が現在目指しているケアの精神として職員間に浸透している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入して新年会、総会、清掃に参加して地域の人達と交流している。小学校の運動会の見学、夏祭り、散歩に出かけて挨拶をしている。幼稚園との交流もあります	町内会夏祭りに参加し、小学校の運動会見学、よさこい踊りや子供神輿の来訪など、継続して交流している。昨年からは3回程、幼稚園児が来訪して踊りや歌を披露し一緒に楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に町内会会長さん、役員の方が参加する中で認知症の人を理解して地域に持ち帰っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	活動状況の報告、行事計画、入居者の日々の暮らし、外部評価の報告をして意見を頂いて参考にしている	法人のもう一つのグループホームと合同で会議を行っているが、町内会役員や家族の参加が少ない。民生委員は町内会役員を通して参加をお願いしているところである。会議案内と議事録は全家族宛に送付している。	災害対策など、地域に関係のあるテーマの時には町内会役員が多数参加しているので、今後は、家族も含めて、地域の方に関心を持ってもらえるような年間テーマをあらかじめ設定して周知することで、参加者の増加を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生保担当者に情報提供しケアサービスの報告をしている。運営推進会議に包括支援センター職員が毎回出席して意見を頂いている	市・区の管理者会議に参加し、行政からの情報を職員に伝達している。書類や制度的なことでは分からない時は担当者に電話で確認している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	重要事項で身体拘束をしないと明示して家族に説明している「身体拘束マニュアル」にそってケアを振り返っています	外部研修で虐待・身体拘束の内容を学び、報告会や資料の閲覧で共有している。管理者は拘束につながりやすい言動を日常のケアの中で注意し、利用者が外に出たい時は制止しないで職員が付き添っている。マニュアルにある「禁止の対象となる具体的な行為」の理解は充分とは言えない。	学習会の中で、身体拘束の「禁止の対象となる具体的な行為」の11項目を年に1回以上は職員間で内容を確認し、理解を深めるような機会を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年研修に参加して報告会をしております。職員は人間の尊厳を第一に考えております		

グループホーム「青空」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学習する機会がありました。現在入居者の一人がこの制度を活用しております		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、又は改定時は文書と口答でわかりやすく説明、納得している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に笑顔で対応して生活状態を伝えて話やすい雰囲気心掛けています。ホーム便り、個々の手紙で意見、要望の問いかけをしています	年に3回の「青空便り」と、職員一同からの便りを手書きで毎月送っている。家族の来訪時には生活状況を報告する中で意見を聞いている。意見や連絡などは「連絡ノート」に記録し共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝申し送り後にミニカンファレンスをしています。問題点が提案された時には、午後の時間に改めて検討して職員の意見を聞く機会を作っています	ミニカンファレンスやスタッフ会議で検討事項やケアの提案などを話し合い、「連絡ノート」と「管理者報告ノート」で全員が把握している。職員は、誕生日のお祝いや行事の計画を交代で分担している。管理者は状況に応じて職員の個人談を行い、休日も事前に希望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩時間、公休の確保し時間外はない。休みの希望を受け入れて個人生活も充実して勤務につくように努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修のパンフレットを提供して希望をとったり勤めている。院内研修には積極的に参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は札幌市と区の管理者会議でネットワークづくりや学習会を行っている。同じ法人のグループホーム、ケアハウスのスタッフと交流して色々な気づきをケアサービスに生かしている		

グループホーム「青空」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人を受け入れようとする気持ちを持って笑顔でやさしく対応し話しやすい雰囲気をつくっている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの経過をゆっくり話をして頂き意向、要望を伺っています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームの環境に徐々に慣れて安心して過ごせるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る範囲でホームのお手伝いをして「ありがとう」と言葉で伝えています		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態をこまめに報告して楽しく過ごせるようにお互いに協力して行きましょうとお願いしします。またホームの行事にも参加して頂けるように声掛けをしています		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会時、電話があった時には笑顔でお礼をのべて「またお越しください、お電話ください」と声掛けをする家族にも今までの関係を継続するようにお願いしています	近所の方が年に数回は来訪している。家族の事情もあり馴染みの場所に出かけるのは難しくなっているが、継続できるようにお願いしている。職員の同行で、以前に住んでいた所の近くにある大型店で買い物をすることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テレビをみたり余暇活動に参加して楽しんでいます。車椅子の介助、テーブル拭き、洗濯物たたみ等協力し合っている		

グループホーム「青空」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院の方へ移られても時々面会に行き状態をみて、思い出話をしたり元気づけている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「このままでいい」と答えております。家族、スタッフからの情報を参考にしています、又雑談する中で思いをくみ取っています	「ライフヒストリー表」や「基本情報」に職歴や趣味を記載し、「アセスメント表」や「チェックポイントシート」を使用し、6か月毎に見直している。言葉で思いを表現できない利用者には、動作を参考に、問いかけて思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族から聴取したり文章で記載して頂いて今までの生活歴を詳細に把握するようにしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ない所はどこで何に困っているのか、訴えがないので行動を注意しています		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プランの原案を家族とスタッフ会議で検討し、家族の承認を得て介護計画としている	介護計画作成者は6か月毎に計画を見直し、支援経過でモニタリング・評価を行い、スタッフ会議に諮って完成させている。また、日々の介護記録は、見開きに綴ってある介護計画書を意識して記録するようにしているが、短期目標に連動した記録が十分とは言えない。	介護計画の目標に対しての変化なども介護記録に記載し、次の計画につながるような記録の工夫に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に食事量、排泄、身体状況および本人の言動を記録している。申し送りも詳細で記録と共に情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外科、整形外科の専門医受診に付き添いで情報提供している。希望の物を代行して買い物したり、衣類の買い物に同行します		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーに買い物に行ったり、小学校の運動会の見学、地域の夏祭りに行ったりボランティアの受け入れをして楽しみを持つようにしている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所が医療と一体化している所に期待して入所して来ているのでかかりつけ医は当施設の協力病院になっている。受診時は看護師が同行している	利用開始時にかかりつけ医の希望を聞き、全員が納得の上で母体の協力病院に通院している。他科受診の通院支援は基本は家族だが、希望に応じて職員も支援している。主治医間の医療情報提供書を基に情報を共有し、受診結果などは「介護支援経過」や介護記録の「医療その他」の欄に記載している。	

グループホーム「青空」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康管理や状態変化に応じた支援が行えるように看護師が配置されている。介護職員は色々な情報を看護師に流してくれている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護添書と口答で情報を詳しく提供している。何度も面会に行き病院関係者と情報交換している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた指針があり、入所時に文書と口答で説明している。現状では事業所で行える所まで介護して隣接の病院に入院している	利用開始時に、医師の判断の下で行う看取り介護の具体的な方法を説明して同意を得ている。状態の変化時には方針を確認し可能な限り対応しているが、現状では医療機関での対応となっている。話し合いの内容を介護記録に記載し方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習に参加して実践力を身につけている。急変時は隣接の病院へ安全に早く受診するようにしている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練があります。誘導、通報、消火の訓練を行います。隣接する病院からの応援の協力体制も出来ている	併設のケアハウスと合同で昼夜を想定した避難訓練を設備会社のチェックの基で行っている。地震などの避難場所を決め、事業所内の危険な場所も確認している。災害備蓄品類を整備し、救急救命訓練も定期的を受講し、災害・緊急時に備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者として敬意を払い人前であからさまに介護したり声掛けをして本人を傷つけてしまわないように目立たずさりげない対応に配慮している	職員は毎年1回、接遇研修を受けており、言葉づかいなどについて学んでいる。利用者への呼びかけは、名字に「さん」付けととして優しく接している。個人情報、事務スペースの鍵の掛かる引き出しで安全に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の状態に合わせて本人が答えやすく選びやすいような働きかけをしている。難聴の方には文字盤等の筆談で意向の確認をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日のスケジュールがありますが本人の体調、気持ちや希望を聞いて相談しながら過ごしている強制はしない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の乱れ、汚れ等に対してプライドを大切に丁寧にさり気なくカバーして清潔感が持てるようにしている。お化粧、ヒゲ剃りの支援、理美容促したり爪切りも心がけている		

グループホーム「青空」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、配膳のお手伝いをして職員も同じテーブルを囲んで静かなBGMをかけて一緒に食事をしている。お誕生会では本人の希望するメニューにしている。外食のランチバイキングに出かけました	法人の栄養士が、同じ敷地内の2つのグループホームの献立を1週間毎に立てているが、利用者の好みを取り入れた献立や行事食は、栄養士と3事業所の管理者が参加する献立会議で決めている。毎日2名の職員が利用者と一緒に同じ食事をとっている。外食行事も年2回行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立した栄養のバランスがとれたメニューになっている。お粥、刻みとか個別支援して摂取量が低下しないように工夫している。水分摂取量も1500mlにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛け、見守りし出来ない方は介助して清潔保持に努めている。義歯の消毒は週2回している。定期的に歯科往診もあります		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意の訴えない方は排泄パターンを把握してトイレ誘導している。立ち上がり出来ない方も介助してトイレでの排泄を支援している。移動に問題のある方は夜間はポータブルトイレを使用している	排泄介助の必要な利用者は、介護記録から排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように支援している。声かけは、小さな声で「どこに行きますか」など周囲に分からないように誘っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立メニューに便秘対策の食材が入れている。毎日の水分補給、体操、散歩をして身体を動かしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	プライバシーや羞恥心に配慮してくつろいだ気分でゆっくり入浴出来るように支援している。立ち上がり出来ない方も恐怖心がなく安全、安心な入浴出来るようにシャワー用椅子を使用している	午後1:30～3:30の時間帯で、週2回を基本に入浴支援をしている。希望があればそれ以上でも入浴できる。入浴拒否の場合は、強制せず、曜日やずらしたりシャワー浴などで対応している。2人介助も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のペースで午睡したりソファで居眠りを見守りしている。心地良く眠りにつけるように夕食後から就寝に向けて静かな時間を持っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬剤ファイルがあり職員が見れるようになっている。誤薬のないように注意して服薬の見守り、又は介助している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	車椅子介助、洗濯物たたみ、テーブル拭き、カーテンの開閉等のお手伝いをして頂いて感謝の言葉を伝えている。相撲、歌、時代劇を好む方には声掛けをしている		

グループホーム「青空」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雪のない季節は車椅子の方も一緒に戸外散歩します。毎日の日課には渡り廊下を通して隣接の施設へ散歩しています。バスドライブも6回開催して楽しみました	天候の良い時期には、近くの公園を散歩したり、前庭のベンチで季節の花を眺めている。バスドライブやホテルランチなどの外出行事もある。経営母体の病院や他の事業所と渡り廊下でつながっていて多目的スペースもあるため、屋内での楽しみごとは多いことから冬期の外出は殆どない。今後は、冬期でも外気に触れる機会をつくることを検討中である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談して少額のお金を所持している方、施設で預かっている方がおります。売店や近所のスーパー、移動販売で買い物をして自分の財布からの支払いを見守ります		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居時に家族にテレホンカードのお話をします。希望時は公衆電話に誘導したり、知人から電話もあり交流が継続出来るように支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、食堂から中庭が一望出来て季節感を肌で感じ取れています。台所で料理している姿が見えたり、音、臭いがして生活感が感じられます。又、季節感を先行した展示物も飾っております。温度、湿度に注意して快適に過ごせるようにしている	共用空間は明るく清潔で、壁には利用者作成のちぎり絵や行事の写真、季節の飾り付けや押絵の作品などが多数飾られ、温かくてゆったりした雰囲気である。同一敷地内の病院や複数の事業所と渡り廊下で自由に行き来ができるので、楽しめる空間が多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にテレビがありソファでくつろいで気の合った同士が過ごしています。又、食堂のテーブルで雑談したり居室前のベンチ、椅子では談話したり休憩している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた馴染みの家具を持ってきています。思い出のアルバム、好みの置物等を飾って安心して過ごせるようにしています。衣類の整理が難しくなった方にはタンスにラベルを標示している	各居室の入口には、色柄の異なる暖簾が下げられ、ドアも色違いで自分の部屋を認識しやすいように配慮されている。居室内には、利用者の使い慣れた家具などが持ち込まれ、家族の写真が飾られるなど居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下には手すりがありバリアフリーで安全に配慮している。「便所、トイレ」の張り紙各居室のドアは色分けしてあり、のれんを掛けてわかりやすくしている		



## 目標達成計画

事業所名 グループホーム「青空」

作成日：平成 26年 1月 6日

市町村受理日：平成 26年 1月 9日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議に地域の方、家族の参加が少ない	町内の方、家族様など複数の方に参加して頂く	会議のおおよその年間テーマを設定して参加を呼び掛ける	1年
2	6	身体拘束のマニュアルにある「禁止の対象となる具体的な行為」の理解が充分とは言えない	身体拘束の「禁止の対象となる具体的な行為」の理解を深める	2か月に1回身体拘束マニュアルの勉強会を行う	6か月
3	26	介護計画の短期目標に連動した記録がされていない	短期目標に対する変化、評価の記録ができる	短期目標に対する記録の書き方を研修、参考書で学習する	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。